

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会 第21回研究集会

日時 平成13年11月22日(木) 14:30~17:00

場所 川崎医療福祉大学 1階第2会議室

研究発表

1. 尿中硫酸定量の栄養学的意義について

川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科	坪井 和美	朝倉 洋平
	浅岡 美穂	産賀 敏彦
川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻	中村 博範	
川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 臨床栄養学専攻	八木 潤	

2. 皮膚神経刺激による背筋反射

川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科	明石 謙	西本 哲也
川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 リハビリテーション学専攻	小山 愛子	

講演

1. 社会事象への社会心理学的アプローチ

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科	岩淵 千明
------------------------	-------

2. 内から見た国連, 外から見た日本

川崎医療福祉大学 医療技術学部 医療情報学科	畠 一彦
------------------------	------

研究発表要旨

尿中硫酸定量の栄養学的意義について

川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科	坪井 和美	朝倉 洋平
	浅岡 美穂	産賀 敏彦
川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻	中村 博範	
川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 臨床栄養学専攻	八木 潤	

硫黄は、主としてタンパク質中の含硫アミノ酸であるメチオニンとシステインの成分として摂取され、体内で代謝を受けたあと最終的に主として硫酸にまで酸化されて尿中に排泄される。ヒト尿中の硫黄化合物の90-95%は硫酸である。従って尿中硫酸の定量によって含硫アミノ酸代謝ないし硫黄代謝を推定することができる。女子大生81名の早朝尿中の遊離硫酸および総硫酸(遊離+エステル)をイオンクロマトグラフィーで定量した。また、タンパク

質代謝を反映する尿素を定量し、硫酸排泄と尿素排泄の相関を調べた。その結果、遊離硫酸および総硫酸排泄量は尿素排泄量と有意な正の相関を示した。尿素排泄量0の点において、総硫酸5.88, 遊離硫酸5.31 $\mu\text{mol}/\text{mg}$ クレアチニンの排泄があり、これは食物中の硫酸に由来するものと推定された。含硫アミノ酸由来および食物由来の硫酸の栄養学的意義および尿中硫酸の簡便測定法としての比濁法の有用性について述べた。

皮膚神経刺激による背筋反射

川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科 明石 謙 西本 哲也
川崎医療福祉大学 医療技術学研究所 リハビリテーション学専攻 小山 愛子

背部皮神経の電気刺激を行い背筋群から電位を誘導した。誘導は脊柱起立筋の筋腹で L_3 レベルを中心に上下に約 4 cm 間隔を置き左右に各 2 個取り付けた。刺激は単極法で不感電極は正中仙骨稜に固定した。対象は男性 10 名で、平均年齢 21.1 歳である。刺激は 1 秒 1 回、幅 1 msec. で皮神経に電極がうまく当たると 8-10mA の強さで反応がでる。又しげきは

左右両側で行った。潜時は 4.0~22.4msec. で右側の刺激で左側の背筋に反応が見られるものもあった。波形は同じでも潜時には揺らぎがあった。潜時が 30~50msec. の反応も認められ。所謂 long loop reflex の存在を疑わせた。此等の反応は一般に言う F 波とは異なり純粋に知覚神経のみを刺激して得られる反応なので、皮膚反射と呼ぶのが適当と思われる。

社会事象への社会心理学的アプローチ

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科 岩淵 千明

今日は私の専門とする社会心理学を紹介するという観点からお話ししていく予定です。

古くはドイツの民族心理学やフランスの群集心理学に始まり、20世紀の初めにイギリスやアメリカで社会心理学と命名した書籍が出版されました。文化人類学・政治学・歴史学・経済学・社会学・心理学・精神医学などの影響を受けています。心理学の中では基礎心理学と応用心理学の間の中間的な位置で、方法論的には、観察・実験・調査からデータを統計

学的に分析していきます。

研究領域は、社会化・自己・対人行動や対人関係・集団・社会現象などに大別されています。個人が社会から受ける影響：文化・家庭・学校・地域社会からの影響、自分の心理的状态：自己概念・認知・帰属、個人と他者との関係：対人相互作用や対人魅力、集団内心理：集団や組織での心理またリーダーシップ、社会事象と個人の関係：大衆社会現象・流行、などに焦点をあてた研究があります。

内から見た国連、外から見た日本

川崎医療福祉大学 医療技術学部 医療情報学科 畠 一彦

ジュネーブの国連欧州本部、及び世界保健機関で、民間出身の職員として勤務した30年に感じたことを述べた。国連職員の年金制度、健康保険の合理性。課長職レベルまでは、政治的影響力を受けることは無い完全能力主義とはいえ、自分から積極的に行動せねば昇進も転勤も期待できない。国籍、文化に関係無く、有能な人が集まっている。人並みはずれの頭脳の持ち主も、相手の立場、気持ちのわからねば成功しないというのは、万国共通の事実。120%の自己主張も必要。

国際的であるということは、無国籍ということではなく、自国の誇りを持ってはじめて、国際レベルの貢献ができる。日本人の意識に有る外国はイコールアメリカと思う程、日本人にとってヨーロッパ、アフリカ、アジアさえも遠い存在であることに気付いて愕然とした。国際会議への日本代表があまりにも世界各国の文化、思考の違いに無知なことが多いことも気になった。日本特有の形式主義も世界には通用せず滑稽に見えた。